

第一章 獨逸賠償問題

第五卷 專門委員會の附録 獨逸賠償問題の調査報告書、成立
第四卷 獨逸賠償問題の調査報告書、成立

一三六
一三〇

第一節 獨逸賠償問題ノ沿革

一 對獨平和條約

本問題ハ既ニ「パリ」媾和會議ニ於テ紛議ヲ重ネタル問題ニシテ平和條約ニ於テハ獨逸ノ賠償總額、支拂計畫及聯合國間ニ於ケル分配率等ノ如キ主要ナル問題ノ輪廓ヲ規定スルニ止メテ此等難問題ノ具體的解決ハ之ヲ將來ニ譲リタリ

ニ 賠償分配率ノ決定

而シテ一方平和條約ニ依リ大正九年（千九百二十年）一月設置セラレタル賠償委員會ハ爾來此等ノ諸問題解決ノ爲大ニ努ムル所アリ、他方聯合國ノ首腦者ハ同年四月以降「サン、レモ」「ブローニュ」「ブラッセル」等各地ニ會合シテ擬議シタルモ、關係各

國ノ利害錯雜セル爲容易ニ意見ノ一致ヲ見ルニ至ラス、結局交譲妥協ノ末同年七月「スバ」最高會議ニ於テ漸ク右分配率ノ決定ヲ見、我カ國ハ獨逸ノ賠償總額ノ七厘五毛ヲ受領スルコトト爲レリ
ニ 賠償總額及支拂計畫ノ決定

3
次ニ獨逸國ノ支拂フヘキ賠償金ノ總額竝ニ其ノ支拂計畫決定問題ハ種々ノ曲折ヲ經タル後翌大正十年（千九百二十一年）四月賠償委員會ニ於テ獨逸ノ賠償金總額ヲ千三百二十億金「マルク」ト決議シ獨逸ヲシテ此ノ額ニ對シ甲、乙、丙三種ノ債券ヲ作成ノ上之ヲ賠償委員會ニ交付セシメ、其ノ内丙種債券（八百二十億金「マルク」）ハ獨逸ノ經濟力回復シ充分ナル賠償支拂能力ヲ有スルニ至ル迄之ヲ無利子据置ノ債務トシ、甲種債券（百二十億金「マルク」）

支拂ハ未同半日「マルク」景萬會議ニ列テ神々公認率ノ決定ヲ
圖ル所ニシテ容暴ニ意見ノ一致ヲ求ムルニ至ラス。諸國交響

ク」及乙種債券（三百八十億金「マルク」）ニ對シテハ獨逸ヨ
リ毎年其ノ額面價格ノ六分ニ相當スル金額ヲ支拂ハシムルコトト
決定セリ、此ノ計畫ニ依レハ獨逸ハ毎年五百億金「マルク」ノ六
分即チ三十億金「マルク」ヲ聯合國ニ對シ支拂フノ義務ヲ負フモ
ノナリ、獨逸ハ「ルール」占領ナル制裁ヲ附セル聯合國ノ最後通
牒ニ依リ止ムヲ得ス右ノ支拂計畫ヲ受諾セリ

四 支拂計畫決定ヨリ「ルール」占領迄

獨逸ハ前記計畫ニ從ヒ千九百二十一年ニ於テハ兎モ角約十三億金
「マルク」ノ支拂ヲ了シタルカ、其ノ爲「マルク」爲替相場ハ急
激ニ暴落シ經濟界ハ混亂ノ状態ニ陥リ、早クモ同年十二月ニハ聯
合國ニ對シ支拂ノ猶豫ヲ求ムルノ止ムナキニ至レリ、他方賠償ニ

り對中其ノ露面對露ノ六次ニ賠償スル金銀ヲ支拂ハシムルコトイ
ル」及「露國海陸(三百八十萬金)マツケテ」ニ據テテハ露國

嗣シ英佛兩國間ノ意見ノ杆格ハ甚シキモノアリ、形勢月ト共ニ益々
惡化シ遂ニ大正十二年(千九百二十三年)一月佛白兩國ハ獨逸ノ
賠償債務不履行ヲ理由トシテ兵ヲ獨逸ノ經濟的中樞タル「ルール」
ニ進メ之ヲ占領スルニ至レリ

五「ルール」占領ヨリ「ドーズ」及「マツケナ」兩專門家委員會ノ
開催迄

「ルール」占領ニ對シ獨逸ハ其ノ不法ヲ世界ニ愬フルト共ニ所謂
消極的抵抗ヲ以テ之ニ對峙シタルモ、「マルク」ノ暴落ト共ニ國
情ノ不安彌々甚シク、佛白兩國モ亦事態ヲ其ノ儘推移セシムルト
キハ單リ世界ノ同情ヲ失フノミナラス、多額ノ占領費ヲ要シ不利
少カラサルモノアルヲ以テ只管「ルール」占領ノ始末ニ腐心セリ

議事録ニ大正十二年（千九百二十三年）一月對白蘭國ハ賠償ノ
議ニ英將兩國間ノ意見ノ相違ハ甚クシテ其ノ解決ハ困難ナルヲ認
識シテ英將兩國間ノ意見ノ相違ハ甚クシテ其ノ解決ハ困難ナルヲ認

其ノ間英米ノ斡旋モアリテ佛國ハ遂ニ既ニ定マレル獨逸ノ賠償支
拂總額ノ問題ニ觸ルルコトナクシテ爾後數年間ノ獨逸ノ支拂額ヲ
決定スル爲、賠償委員會ニ從屬スル專門家委員會ヲ組織スルコト
ヲ提議シ、關係諸國ニ於テモ之ニ異議ナク茲ニ二個ノ專門家委員
會ノ設置ヲ見タリ、即チ第一專門家委員會ハ米人「ドーズ」議長
ノ下ニ「獨逸國ノ豫算ノ均衡及通貨ノ安定策」ヲ、第二專門家委
員會ハ英人「マツケナ」議長ノ下ニ「獨逸國外ヘ流出セル資本ノ
評價及之カ復歸策」ヲ研究スルコトト爲レリ、此ノ兩委員會ハ大
正十三年（千九百二十四年）四月報告書ヲ夫々賠償委員會ニ提
出セリ、所謂「ドーズ」案トハ此ノ第一專門家委員會ノ報告書ヲ
指スモノトス

六「ロンドン」會議ノ開催

仍テ關係諸國ハ同年七月十六日以降八月十六日迄「ロンドン」ニ於テ會議ヲ開キテ右報告ヲ採擇シ、其ノ實施ニ必要ナル協定ヲ遂ケタリ、「ドーズ」案ハ大正十三年（千九百二十四年）九月一日ヨリ昭和四年（千九百二十九年）八月末ニ至ル迄支障ナク實施セラレテ相當満足ナル結果ヲ示シタリ（註）、即チ同案ノ實行ニ依リ始メテ獨逸ノ財政ハ均衡ヲ得其ノ通貨ハ安定シテ、賠償問題ハ茲ニ其ノ解決ノ第一歩ヲ進メタリト謂フヘシ

セ「ロンドン」會議ヨリ「ヤング」委員會迄（「ドーズ」案ヨリ「ヤング」案へ）

然レトモ前述ノ通り「ドーズ」案ハ其ノ當時紛糾ヲ極メタル獨逸

經濟界ニ對スル一時的ノ應急策ニ過キスシテ之カ最終的解決ヲ目的トシタルモノニ非ス、又獨逸ノ支拂ノ期間等モ明定セラルルコトナク、隨テ獨逸ノ負擔ノ總額ハ之ヲ知ルヲ得サリシモノナリ

(註) 「ドーズ」年金五箇年度ニ於テ獨逸ハ總額約八十億金「マルク」ヲ償權國側ニ支拂フヲ得タルカ、其ノ内我カ國ノ受領額ハ約四千五百十萬金「マルク」ナリ

然ル處「ドーズ」案實施ノ經驗ニ依リ賠償問題ヲ最終的ニ決定スルノ必要ナルコト明確ト爲レルト同時ニ、獨逸ハ頻ニ「ライン」撤兵ヲ要求シ、佛國ハ又賠償問題ノ最終的解決ヲ見サル以上ハ撤兵ヲ肯セス、遂ニ右兩問題ノ關連ハ承認セラレテ茲ニ賠償問題ノ最終的解決ノ機運熟スルモノアリ、昭和三年(千九百二十八年)

九月十六日「ジュネーヴ」ニ於ケル日、英、佛、伊、白、獨ノ六國ノ代表者ノ會合ニ於テ賠償問題ノ完全且最終的解決ノ爲財政專門家ノ委員會ヲ設置スルコトヲ決議シタリ

右専門委員會ハ翌昭和四年（千九百二十九年）二月十一日ヨリ六月七日迄米人「ヤング」議長ノ下ニ「パリ」ニ開會シ、賠償問題ノ最終的解決案ヲ作成シテ賠償委員會及關係國政府ニ報告ヲ了セリ、是レ「ヤング」案ニシテ該案ノ骨子ハ、賠償問題ヲ經濟化シ以テ將來ニ於ケル政治的紛糾ヲ避クルト同時ニ獨逸ノ債務ノ履行ヲ確實ナラシムルコトニ在ルモノトス

以下「ヤング」案ノ支拂計畫ニ付其ノ大綱ヲ略説スレハ

(一) 年金支拂期間及年金額

支拂期間ハ之ヲ

第一期 三十六箇年七箇月（千九百二十九年九月一日ヨリ千九

百六十六年三月三十一日ニ至ル）

第二期 二十二箇年（千九百六十六年四月一日ヨリ千九百八十

八年三月三十一日ニ至ル）

ニ分チ、獨逸ハ第一期ニ於テハ年度ニ依リ最低七億四千二百八十萬「ライヒスマルク」、最高二十四億二千八百八十萬「ライヒスマルク」平均十九億八千八百八十萬「ライヒスマルク」ハ「ドーズ」案ニ依リ發行セラレタル獨逸ノ外債ノ元利拂ヲ加ヘテ毎年平均二十億五千六十萬「ライヒスマルク」ヲ三十七回支拂ヒ、第二期ニ於テハ年金ハ最高十七億「ライヒスマルク」

ニシテ、最終ノ年度ニ於テ最低額タル八億九千七百八十萬「ラ
イヒスマルク」ヲ支拂フヘキモノトス、右第一期ノ年金ハ聯合
國ノ戰債（日本ハ之ヲ有セス）及損害賠償ニ、又第二期ノ年金
ハ戰債ノミニ充ツル額トス

今右第一期及第二期ニ於ケル年金ノ總額ヲ五分半ノ利率ニテ現在
價格ニ換算スルトキハ三百五十八億一千四百萬「ライヒスマル
ク」（此ノ内戰債ニ相當スル分二百三十四億六千九百萬、賠償
ニ相當スル分百二十三億四千五百萬）ト爲ル

(二) 支拂方法

「ヤング」案カ獨逸賠償ノ最終的解決案タル以上獨逸ニ國外送
金（「トランスファー」）ノ義務ヲ負ハシムルコトハ當然ナル

トコロ、年金ノ全部ヲ絶對無條件ニ國外送金セシムルトキハ、獨逸ノ通貨安定ニ影響ヲ及ホス問題生スヘキヲ以テ其ノ金額ハ自ラ制限セラルルコトト爲ルヘク、反之若シ無條件送金義務ハ年金ノ一部ニ限り、其ノ他ノ部分ニ付テハ獨逸經濟界困難ノ場合ニハ國外送金ヲ猶豫スルノ特典ヲ與フルコトト定ムルトキハ年金總額ハ多少多額ナリトモ獨逸ハ之ヲ引受ケ得ヘキ次第ナリ是ニ於テ新案ハ年金ヲ無條件ノ部分ト條件附ノ部分トニ分チ、前者ヲ年額六億六千萬「ライヒスマルク」(「ドーズ」外債ノ元利拂ヲ含ム)トシテ、此ノ部分ニ付テハ獨逸ハ絶對無條件ニ國外送金ノ義務アルモノトシ、又此ノ部分ニ付テハ債權國ハ一般賣出(「モビリゼーション」)ヲ爲シ得ルコトトシ、後者即

子條件附ノ分ニ付テハ獨逸ハ其ノ經濟界困難ノ場合ニハ國外送
 金ヲ延期シ得ルノ權利ヲ有スルモノト定メタリ、而シテ右國外
 送金延期ノ後更ニ經濟界惡化ノ場合ニハ條件附年金ノ半額ニ付
 一年間ヲ限り「ライヒスマルク」ニ依ル支拂ヲモ延期スルノ權
 利ヲ獨逸ニ付與シタリ、此ノ國外送金及支拂延期ノ制度ハ「ヤ
 シング」案ノ實施上重要ナル安全辨タルモノトス、尙獨逸カ國外
 送金ノ延期ヲ宣言シタル場合又ハ其ノ經濟界カ國外送金ニ依リ
 危殆ニ陥ルヘキコトヲ宣言シタル場合ニハ、國際決済銀行（後
 述）ハ特別諮問委員會ヲ招集シテ事實ヲ審査シ、其ノ善後策ニ
 付關係國政府ニ報告セシムルコトトセリ、是レ次ニ重要ナル安
 全辨ナリトス、第三ノ安全辨ハ戰債ニ輕減アリタル場合ノ獨逸

ノ賠償債務ノ輕減ニシテ、將來英米等ニ對スル賠償債權國ノ戰
 債力減額セラルル場合ニハ、第一期即チ最初ノ三十七箇年ニ付
 テハ其ノ純輕減額ノ三分ノ二丈ケ、第二期即チ後ノ二十二箇年
 ニ付テハ純輕減額ノ全額ヲ獨逸ノ賠償年金ヨリ控除スルモノト
 ス、此ノ賠償債務ト戰債トノ相關聯スルコトノ認メラレタル點
 ハ興味アル問題ナリトス

(三) 實物引渡

獨逸ヨリ聯合各國ヘノ實物引渡ノ制度ハ獨逸ヨリ成ルヘク多大
 ノ賠償ヲ得ル爲ノ賠償支拂方法ノ一態様ニ過キサルトコロ、從
 來英國等ノ反對アリシ制度ナリ、然レトモ從來賠償ノ少カラサ
 ル部分カ此ノ制度ニ依リ行ハレ來レル關係上、俄ニ之ヲ廢止ス

對其獨逸ノ賠償ニシテ、第一賠償ノ期限ノ三十日留平ニ付
、賠償額ニシテ、總額ニシテ、從來英米等ニ擬スル賠償額ニ對シ

ルコトハ獨逸ノ經濟界ニ激變ヲ與フヘキヲ以テ其ノ額ヲ少クシ
且十年間ニ限り此ノ支拂方法ヲ認ムルコトト爲レリ

(四) 一般賣出 (「モビリゼーション」)

一般賣出即チ獨逸ノ賠償年金ヲ支拂基金トシテ獨逸ニ公債ヲ發
行セシメ、其ノ收得金ヲ債權國ニ於テ一時ニ收受スルコトハ豫
テ債權國側ノ希望セル所ニシテ、其ノ實行確實ナルノ見込存ス
ルニ於テハ、獨逸ノ賠償總額ヲ大ニ減額スルモ可ナリトスル地
位ニ在ル國少カラス、佛國等ハ其ノ最タルモノトス

此ノ一般賣出ノ制ハ從來ノ賠償支拂計畫、例ヘハ「ドーズ」案
ニ於テモ豫見セラレ居リシモ、實現ニ至ラス失敗ニ歸セルモノ
ナルカ、其ノ主ナル原因ハ獨逸ノ負擔ノ限度確定セサリシコト

(五) 國際決濟銀行

ト、獨逸ニ國外送金ノ義務存セサリシ爲ニシテ、獨逸ニ國外送金ノ絶對義務ヲ負ハシメタル新案ノ無條件年金ニ對シテハ世界市場ハ之ヲ確實ナル財源トシテ認ムルヲ以テ、一般賣出ヲ爲シ得ルコトト爲ルモノナリ、該公債發行後ハ年金中ノ此ノ部分ニ付テハ獨逸ト債權國トノ關係ハ消滅シテ獨逸、公債所持人間ノ關係ト爲ルヲ以テ茲ニ「ヤング」案ノ高調セル賠償問題ノ經濟化カ實現セラルル次第ナリ

因ニ昭和五年六月新案ノ下ニ國際決濟銀行ニ依リ三億「ドル」ノ賠償公債發行セラレタルカ其ノ成績ハ極メテ良好ナリキ

「ヤング」案中最モ重要ナル計畫ハ國際決濟銀行ノ創立ナリト

金、賠償機構ヲ設ルハ必要ニシテ、賠償金ノ取扱ニ止ラス、世界各國ニ於ケル各中央銀行ノ協力ノ促進及國際金融ノ助長ヲ目的トスル機關トシテ計畫セラルルコトト爲レリ

從來ニ於テモ賠償金取扱ノ爲賠償銀行設立ノ必要ヲ唱ヘタル者アリ、又國際金融ノ助長、統制ノ爲國際銀行ノ設立ヲ企圖シタルモノモアリタルモ其ノ機ヲ得スシテ實現ノ運ヒニ至ラザリシカ、今次賠償問題ノ最終的解決ナル好機ニ會シテ、前記二個ノ職能ヲ具有シタル國際決済銀行ノ設立ヲ見ルニ至リタルハ賠償史及國際金融史上劃時代的ノモノナリト稱スルヲ得ヘシ

以下「ヤング」案ト從來ノ「ドーズ」案トヲ比較考査スルニ

第一「ドーズ」案ハ單ニ五箇年ノ各年金ヲ定ムルニ止メテ、第六年以降ハ標準年金（二十五億金「マルク」）ニ獨逸ノ經濟力ノ發展ヲ反映スヘキ所謂「繁榮指數」ナルモノニ基キ算出シタル不確定年金ヲ加算スルコトトセリ、從テ賠償年金ノ總額モ其ノ支拂ノ總年數モ確定セサリシモノナルカ、「ヤング」案ハ進ンテ獨逸ノ年金ノ額ト年金ノ數トヲ確定シテ同國ノ負擔ノ限度ヲ明ニセリ

第二「ドーズ」案ニ於テハ前述ノ通り獨逸ノ債務ハ標準年金タル二十五億金「マルク」ニ繁榮指數ニ依ル所謂不確定年金ヲ加算シタル額ナルトコロ、「ヤング」案所定年金ノ平均年額ハ「ドーズ」外債ノ元利拂ヲ加ヘテ既述ノ通り約二十億「ライヒス

六半以對ハ賠償半金ハ二十五億金「マルク」ニ歸級ノ賠償
案「ドーズ」案ハ單ニ正當平ノ各半金ヲ得ルニ出スモ、案

マルク」ニシテ多大ノ減額ヲ見タリ、斯ノ如ク減額セラレタル
モ獨逸ノ賠償債務カ確實性ヲ帶有スルコトト爲レル點ハ債權國
ニ取リテ頗ル有利ナリトス

第三「ドーズ」案ハ賠償金ノ取立ヲ確保スル爲各種ノ監督機關
ヲ設ケタルモ、「ヤング」案ハ之カ一切ヲ廢止シタリ

第四「ドーズ」案ノ下ニ於テハ獨逸ハ單ニ「ライヒスマルク」
ヲ以テ賠償ヲ支拂フノ義務ヲ負ヘルニ過キサルモ、「ヤング」

案ニ於テハ獨逸ハ原則トシテ外國通貨ヲ以テ之ヲ支拂フノ義務
ヲ負擔スルコトト爲レリ

第五「ドーズ」案ニ於テハ獨逸ニ對スル賠償債權ハ政治的性質
ヲ帶有シタルモ、「ヤング」案ニ依リ普通ノ金融的債權ト爲リ

賠償支拂ハ普通商業界ニ於ケル確實ナル取引ト變シ又一般賣出ニ依リテ債權國ハ一時ニ元金ノ大部分ヲ收受シ得ルコトト爲レリ

第六賠償委員會等ヲ止メ國際決済銀行ヲ設立シテ之ニ代ラシムルコトトセリ

以上ハ「ヤング」「ドーズ」兩案ノ相違點ノ主要ナルモノトスヘ「ヘーグ」會議ノ開催

而シテ「ヤング」案ハ専門家ノ報告ニシテ、之ヲ國際約定ト爲サシカ爲ニハ關係國政府間ノ協定ヲ要スルヲ以テ、昭和四年（千九百二十九年）七月六日ヨリ關係國代表ノ會議ヲ「ヘーグ」ニ開キタリ、右會議ニ於テハ各國互讓、妥協ノ結果「ヤング」案ノ主義

上ノ承認ニ付テハ各國大體意見ノ一致ヲ見タルカ、其ノ實施ノ細
 目其ノ他東方賠償問題（埃、洪、勃ノ賠償債務決定ノ問題等）ニ
 付テハ尙研究ヲ要スルモノ少カラズ存シタルヲ以テ、各種ノ委員
 會ヲ設置シテ之ヲ研究セシメ其ノ成案ヲ待ツテ再ヒ會議ヲ開クコ
 トトシ、八月三十一日一先ツ閉會セリ、爾來各種ノ委員會ハ「パ
 リ」、「ブラッセル」、「バーデン」、「バーデン」等ニ會合シテ審
 議ヲ遂ケ、昭和四年（千九百二十九年）十二月漸ク各委員會ノ報
 告纏ルヲ待ツテ、關係國代表者ハ昭和五年（千九百三十年）一月
 三日ヨリ同月二十日迄再ヒ「ヘーグ」ニ會議ヲ開キ、茲ニ賠償問
 題ノ所謂最終的解決ヲ見ルニ至リタリ

第二節 獨逸賠償諸協定ノ要旨

「ヘーグ」會議ニ於テ作成セラレタル文書ハ最終議定書ノ外十七箇アリ、其ノ内三箇ハ「ライン」地方撤兵問題又ハ戰債輕減ノ場合ニ於ケル獨逸賠償輕減問題ニ關スルモノニシテ我カ國ノ關係ナキ文書ナリトス、尙殘リノ内五箇ハ東方賠償ニ關スルモノニシテ、第二章ニ於テ説明セルモノナリ、從テ獨逸賠償關係文書ニシテ我カ國ニ關係アルモノハ十箇（内二箇ハ御批准ヲ經ヘキモノ）ニシテ、其ノ内容頗ル複雑多岐ニ亘レルカ左ニ右各文書ニ付其ノ要旨ヲ示スヘシ

(一) 千九百二十八年九月十六日ノ「ジュネーヴ」決定ニ依リ設置セラレタル専門家委員會ノ報告書（「ヤング」案）

本報告書ハ所謂「ヤング」案ニシテ或ハ之ヲ千九百二十九年六月

七日ノ専門家報告書トモ稱シ、其ノ要旨ハ既述ノ通りナリ

(二) 千九百二十九年八月ノ「ヘーグ」議定書

第一次「ヘーグ」會議ノ際作成セラレタルモノニシテ、議長陳述ノ形式ニ依ル本文ト四箇ノ附屬書トヨリ成リ、「ヤング」案ヲ主義トシテ採用スルト共ニ之ニ若干ノ變更ヲ加ヘタリ（「ヤング」案ニテハ無條件年金ハ「ドーズ」外債ノ元利拂ヲ含ミテ六億六千萬「ライヒスマルク」ト定メ居レルヲ、本議定書ニ於テハ「ドーズ」外債ノ元利拂ヲ除キテ六億千二百萬「ライヒスマルク」ト改メタルコトハ主ナル變更ノ一ナリトス）

(三) 千九百三十年一月ノ獨逸國トノ「ヘーグ」協定

本協定ニハ基本協定ノ外十二箇ノ附屬書アリ、新案ノ受諾、過去

今日、専門家辯論書イテ辨明シ、其ノ要旨ハ、總論、論議ナリ

ノ清算、年金、國際決済銀行、債務證書、支拂延期、實物引渡、
信託契約、仲裁裁判及批准等ニ關シ詳細ニ規定スルトコロアリ
前記（一）「ヤング」案、（二）八月ノ「ヘーグ」議定書及本協定ヲ一括
シテ「新案」ト稱シ、新案ハ賠償委員會ト戰爭負擔委員會（註）
會長トカ共同シテ（イ）獨逸ノ批准及關係法律ノ公布（ロ）日、英、佛、
白、伊ノ五國中ノ四國ノ批准（ハ）國際決済銀行ノ設立等ヲ確認シタ
ル時ヨリ實施セラルルモノトス（本協定ハ御批准ヲ經ヘキ文書ナ
リ）

（註）賠償委員會トノ交渉及賠償ニ關スル關係官廳間ノ事務ノ統
制ニ任スル獨逸政府ノ機關ナリ

計清變條、中銀海關及批郵等三屬之半數ニ與守スハトコロアリ
、蓄藏、半金、國債及膏羅百、青島鐵道、支那海關、實業用鐵、

本取極ハ債權國間ニ於ケル賠償分配問題ヲ解決スルノ必要上締結
セラレタルモノニ係リ、本取極ニ依リ新案所定ノ分配ハ最終的ニ
シテ、債權國相互間及各債權國ト賠償委員會トノ間ニ於ケル勘定
ハ之ヲ打切り、賠償委員會ノ保持セル「バグダッド」鐵道株ハ之
ヲ英、佛、伊ノ三國間ニ均分スルコトト爲レリ、又獨逸カ聯合國
ニ讓渡シタル海底電線ノ分配ハ今後關係債權國間ニ於テ決定セラ
ルヘキコト規定セラレタリ（本協定ハ御批准ヲ經ヘキモノトス）

(五) 國際決濟銀行ニ關スル條約（瑞西國トノ條約）

國際決濟銀行ハ其ノ所在地國タル瑞西ノ國內法ニ準據シテ設立セ
ラルヘキモノナルモ、同銀行ハ賠償金ノ受領、管理及分配等特殊
ノ使命ヲ有シ、在來ノ儘ノ瑞西國內法ヲ以テ之ヲ律スルコトハ當

如キ場合アルコトヲ懸念シ、獨逸ヲシテ斯ノ如キ措置ニ出テサル旨ノ約束ヲ爲サシメタルモノニシテ、本件議長「ジャスバール」獨逸外相「クルテイウス」間ノ交換公文ハ右ノ目的ニ出テタモノナリ、米國ヲ明示スルコトハ頗ル「デリケート」ナル爲、單ニ支拂延期ニ關シ獨逸カ何レノ債權國ニモ特別利益ヲ與ヘサルヘキ旨ヲ記スルニ止メタリ、右公文ノ文言中頭字署名云々トアルハ獨米協定カ當時頭字署名セラレタルノミニテ正式ニ署名セラレ居ラサリシ爲ナリ

(八) 獨逸國鐵道會社ノ買率ニ關スル交換公文

獨逸國鐵道法改正案第三十四條ニ於テ、獨逸政府ハ獨逸國鐵道會社カ正シク賠償稅ヲ支拂ヒ、其ノ募集シタル公債ノ元利ヲ償還シ

官ノ請求ヲ爲セシメ、其ノニシテ、本邦鐵道「ミヤス」ニシテ
眼ヲ適合スルニイテ、鐵道ノニシテ、眼ヲ適合スルニイテ、

優先株ニ配當ヲ爲シ得ル様監督スヘキコトヲ規定セル所、佛國等
ハ獨逸政府ノ監督義務ノミニテハ不充分ニシテ、第一ニ會社ノ義
務ト爲サンコトヲ主張シタル結果、結局「クルテイウス」外相ト
「ジャスパール」議長トノ間ニ公文ノ交換ヲ爲シ、同外相ハ其ノ
書翰中ニ「獨逸國鐵道會社ニ右ノ如キ義務アリ、獨逸政府トシテ
ハ右ハ既ニ鐵道法改正案ノ解釋ニ依リ明ナリト認ムルモ、爲念其
ノ解釋ヲ其ノ法案理由書中ニ記載スヘキコト」ヲ述ヘテ折合ヒタ
ル次第ナリ

(九) 經過規定

千九百二十九年八月ノ「ヘーグ」議定書ハ、獨逸ノ年金支拂ハ依
然「ドーズ」案ニ依リテ爲サルルモ、之カ分配ハ實際上「ヤング」

ハ、賠償支拂ノ手續終結ノミニテハ不承知ニシテ、第一ニ會商ノ時
議決料ニ適當ノ金ハ、總監督スル年ニテハ、賠償支拂ノ時、附屬料

案ニ依ルヘキコトヲ規定セリ、其ノ結果賠償取扱人ノ手許ニハ剩
餘金ヲ生スヘク、此剩餘金ニ付テハ賠償支拂取扱人ヲシテ獨逸國
庫ニ對シ千九百二十九年十二月末日迄諸種ノ便宜ヲ與ヘシムルコ
トト爲セルカ、「ヤング」案ノ實施遅延シタル爲、右期限ヲ延長
スルノ必要ヲ生シ本件ニ關スル決議ト爲レリ、其ノ要旨ハ左ノ三
點トス

(イ) 賠償支拂取扱人ハ「ヘーグ」協定署名ノ日以後獨逸ノ批准迄「
ドーズ」年金ト「ヤング」年金トノ差額ヲ獨逸政府ニ貸付クル
コト

(ロ) 右獨逸ノ批准後新案實施迄獨逸政府ハ其ノ支拂ヲ「ヤング」年
金ノ範圍内ニ限ルノ權利ヲ有スルコト

翁金を以てスヘク、出陣翁金ニ付テハ、部商支那銀行入マセテ、破産
案ニ對シテハキロイテ、破産案ナリ、其ノ結果部商銀行入ノ手續ニハ際

(ハ) 新案實施セラレサルトキハ本協定ハ無効ト爲リ、其ノ適用ニ依
リ生スヘキ支拂不足額ハ四箇月内ニ債權國ニ支拂ハルヘキコト

(イ) 白耳義國ニ於ケル獨逸「マルク」ニ關スル白耳義國及獨逸國ノ政
府間ノ協定ニ關シ右兩國ノ夫々ノ全權委員ヨリ會議議長ニ宛テタ
ル書翰

大戰中獨逸カ白耳義ニ於テ強制適用セシメタル「マルク」ヲ白耳
義政府カ回收スルカ爲ニ蒙リタル損害ノ補償問題ハ「ヤング」委
員會ニ於テ問題ト爲リ、同委員會ハ結局同問題カ獨白兩國間ニ解
決セラレサル限り「ヤング」案ヲ實施セサルヘキコトヲ明ニシタ
ルカ、千九百二十九年七月十三日ニ至リ本件ニ關スル獨白協定成
立セルヲ以テ、「ヘーグ」會議中獨白兩國外相ヨリ會議議長ニ對

シ夫々右成立ノ事實竝ニ同協定ハ新案ト同時ニ實施セラルヘキ旨
ヲ通告シテ兩者ノ關係ヲ明ニシタリ

リ主スヘキ交戦不具條ハ國國民内ニ對辦應ニ支辨ハムヘキコト
ハ條約簽結セラレカムコトハ本國家ハ無難イ事トシ、其ノ處申ニ對

第三節 獨逸賠償諸協定ノ實施狀況

新案ノ效力發生ハ既述ノ通り(一)獨逸ノ批准(二)日、英、佛、白、伊五國中ノ四國ノ批准(三)國際決済銀行ノ設立等ヲ要件ト爲セルガハ先ツ獨逸ハ昭和五年(千九百三十年)三月二十六日其ノ批准ノ寄託ヲ了シ、次テ英、佛、白、伊ノ四國モ同年五月九日批准ノ寄託ヲ爲シ、仲方國際決済銀行モ着々其ノ設立準備ヲ進メテ五月十七日開業セルヲ以テ、賠償委員會ハ同日其ノ最終會議ヲ開キテ前述ノ新協定效力發生ノ三要件ノ完成ヲ確認シ、戰爭負擔委員會ト共同宣言ヲ爲シテ茲ニ新案ハ實施セラルルコトナレリ尙帝國政府ハ昭和六年八月二十七日其ノ批准ヲ了シ同日在佛芳澤大使ヨリ佛國政府宛其ノ旨ヲ通知シ十月三十日批准書ノ寄託ヲ了シタリ

新協定ノ實施ト共ニ賠償委員會及「ドーズ」諸機關ハ其ノ事務ヲ國際決濟銀行ニ引継キ、爾來獨逸ハ新案ニ依リテ其ノ年金ヲ支拂ヒ、國際決濟銀行ハ新案ニ依リテ右年金ノ受領、管理及分配ヲ行ヒツアリ、該銀行ノ最初ノ重要業務ハ三億「ドル」ノ賠償公債ヲ英、米、瑞典、獨、伊、瑞西、佛、白、蘭ノ各市場ニ於テ募集シタルコトニシテ、尙新案實施ノ上ハ昭和五年（千九百三十年）六月末日ヲ限リ「ライン」撤兵ヲ完了スルコト爲リ居レルカ、右新案實施ノ日即チ五月十七日ヲ以テ佛國政府ハ「ライン」第三地帯駐屯ノ佛軍ニ對シ撤退命令ヲ發シ、最終期日タル六月三十日撤退ヲ完了シタリ

第四節 新案ニ依リ我カ國ノ受領スヘキ獨逸賠償金

新案ニ依リ我カ國ハ三十七年間毎年最低千百四十萬「ライヒスマル

ク」、最高千五百二十萬「ライヒスマルク」、平均千三百二十萬「ライヒスマルク」(邦貨約六百三十萬圓)ヲ受領(註)スルコトト爲レルカ、右ノ中六百六十萬「ライヒスマルク」ハ前述ノ無條件年金ニシテ獨逸ハ支拂ヲ延期シ得サルモノトス、尙新案實施後十年間ニ於ケル實物引渡ノ本邦割當總額ハ三千九百三十七萬五千「ライヒスマルク」ニシテ、昭和十四年(千九百三十九年)八月末日迄毎年條件附年金中ヨリ最低百八十二萬五千、最高五百六十二萬五千「ライヒスマルク」ニ相當スル實物引渡ヲ受クル筈ナリトス

(註) 三十七年間ニ於テ我カ國カ賠償トシテ受領スヘキ額ノ總計ハ五億千百萬「ライヒスマルク」ニシテ、昭和五年四月一日以降本邦受領額ノ現在價格(五分半利換算)ハ二億五百

總額ノ概算ハ一億五千萬元ノ額ニ達スルハ、爾來國庫ハ漸次ニ空乏ニシテ其ノ半額ヲ支拂フ、
 孫國軍ノ復讐ハ其ノ額爲委員會議決「ライヒスマルク」總額ノ八割ノ事ニ決ス

